



私立短期大学図書館協議会

# 会報

Bulletin of Junior College Library Association

編集者  
菅原春雄  
発行者  
もり・きよし  
発行  
私立短期大学図書館協議会

1980. 7 No. 6

## 昭和55年度第4回 私立短図協総会開く

日時：昭和55年6月4日 午前10時～正午

場所：東京、伊藤伊弉別館5階

参加者：出席者32名、委任状130名、計162名

### I 会長挨拶

### II 議長選出

木寺清一氏（常盤学園短大）を選出し、議事に入った。

### III 議事

#### 1. 会勢・昭和54年度事業報告（安部常任理事）

##### ○会勢

6月3日現在で181校となっている。その地区別内訳は、北海道13、東北11、関東・甲信越58、東海・北陸20、近畿40、中・四国15、九州24である。

##### ○総大会

5月31日、日本図書館協会で開催した。午前は、浜田敏郎氏と片山喜八郎氏の講演、午後は、岸田国会図書館長、浜田日本図書館協会理事長、加藤公立短期大学図書館協議会会長を来賓に迎えての総大会を開いた。

##### ○全国理事会

5月30日、総大会の運営について協議した。

10月25日、紀要の刊行を中心に討議した。

##### ○文部省主催大学図書館職員講習会

10月30日～11月2日の東京会場に6校が、11月13日～16日の大阪会場に4校が、それぞれ私立短大側から出席した。

##### ○「私立短期大学図書館総覧」の配布状況

加盟校133に無料で配布し、未加盟校その他に145部を頒布した。

##### ○在京役員会

1～5回までは「会報」5号で報告してあるので省略する。第6回（12月23日）では、関東・甲信越地区協議会の運営・研究紀要の編集、「総覧」の集計分析等について報告・協議した。第7回（1月30日）では、第6回の継続討議を主として行なった。第8回（2月28

日）では、関東・甲信越地区と近畿地区での雑誌総合目録作成についての報告と、前回からの継続討議が主な内容であった。

##### ○紀要刊行（宮島編集委員長、代理 川瀬編集委員）

10月、共立女子短期大学が、編集担当校となり、地区理事を通して、原稿の募集を依頼した。また、会報等で募集要項を通知した。寄せられた原稿から19篇を掲載し、55年3月末に刊行し、5月中旬配布を開始した。

##### ○「総覧」の集計・分析（芝原理事）

当所の予定より遅れて、55年7月に完成させ、9月の配布を予定している。短大を、短大単独・大学との併設・中高その他との三つのグループに分け、主として、短大単独について分析する。

##### ○会報（菅原理事）

4号を7月に、5号を12月に発行した。なお、6号は55年7月に予定している。

#### 2. 地区協議会活動報告（各地方理事）

##### ○北海道地区（坂本理事）

54年4月、北海道地区協議会を設立した。会報を年4回発行し、9月にはNDCをテーマに講演会を催した。

##### ○東北地区（中村理事）

1月14日、山形女子短大図書館の開館にあわせて見学・研修会を開いた。また、1月26日、地区協議会を結成し、同時に「NCRの改訂と目録カード」をテーマに研修会を開いた。

##### ○関東・甲信越地区（片山理事）

アンケートをもとに、同地区内の44館の雑誌総合目録の作成が進んでいる。手書の予定をタイプ印刷に変えた。この夏には配布できる見込みである。

##### ○東海・北陸地区（伊藤理事代理・林氏）

10月大垣女子短大で、12月愛知淑徳短大で、それぞれ研修会を実施した。会報を2回発行した。55年10月には、総大会を開く予定である。

○近畿地区(瀬古理事)

54年度は、3回の研修会を開催した。同地区内58館からのアンケート回答をもとに、雑誌総合目録を作成中で、55年7月頃の刊行予定でいる。

○中国・四国地区(竹田理事)

55年5月に、地区協議会規約ができた。

○九州地区(村上理事)

55年5月、西南女学院短大で、地区協議会の設立総会を開いた。

### 3. 決算および会計監査報告

○昭和54年度決算報告(渡辺幹事)

○「私立短期大学図書館総覧」刊行特別会計報告(渡辺幹事)

○会計監査報告(宮島監査)

上記2件について、記帳、証憑等が適正であると認めた旨の報告後、全会一致で承認された。

### 4. 昭和55年度事業計画および予算案(渡辺幹事)

○事業計画

本年度は新規の事業は計画していない。継続事業として、会報の年2回の発行、「短期大学図書館研究」第2号の発行、「総覧」の集計・分析結果報告の刊行等を主な事業としてゆく予定である。

○予算案

新規加盟校を50と見積っての予算案が発表された。下記の質疑応答を経て承認された。

○予算案についての質疑応答

A:事務用消耗品の額が少なすぎはしないか。これでは、事務局担当校に過大な負担をかけることになると思う。

渡辺:心遣いに感謝する。

安部:この件で意見があれば、うかがいたい。

B:今年度に限り、予備費からの流用を考えてみてはどうか。

C:活発な活動をしていることだし、予算に無理が生ずる様なら、今までの実績を踏まえて、会費の値上げを検討してもよいのではないか。

安部:おっしゃる通り、予算規模のわりに、大きな事をしてきたように思う。事務用消耗品、会費の件については、今後検討し、次年度の総会で計らせていただきたい。

議長:事業計画並びに予算案を承認いただけるか。

拍手

司会:これをもって閉会する。会場を提供して下さった伊藤伊にお礼を申し上げたい。(進行:菅原、記録:網木・川瀬)

## ふ ぐ る ま

短協協があった日の午後、JLA、全公図共催の図法制定30年記念式典に出かけた。論客志智大人(元神戸市図)の記念講演に感動し、久しぶりに溜飲が下がる。隅々お話のなかで「全日図」のことに論及され、当時を知る私には一そう懐しい思いがした。

▽戦後上野に勤めた私は職組の執行部に選出され、全文部の中央委員などをさせられたが、同僚Y君たちで組織されたのが全日図(全日本図員組合=All Nippon Library Employee's Union)である。▽上野国会、日比谷の職組で準備会を構成して、全国に檄を飛ばし昭和24年3月に華々しい結成大会が催された、参加200名。▽その日は産別の管議長、共産党中西代議士、民自党広川幹事長ほか中島健蔵、川端康成氏らの激励の辞があり、宣言・綱領・規約の議決をみた。議長に中村初雄(国会)、山下栄(神戸)氏が推され、初代

委員長にK(国会)、書記長にはY(上野)君が選出された。▽宣言はH(国会)の推敲になる名文、綱領では①労働条件の改善、社会的地位の向上、②民主的文化の育成擁護のため、図の振興・読書の普及、③職責を果すために必要な知識教養の向上を期するとの3項を掲げた。いわゆる組合活動からみれば型破りであるが、待遇改善もさることながら、図の発展充実をわれら働く者の手でやろうという気魄と情熱が選っていた。▽また大会スローガンでは現業員に被服と労働加配米の獲得、公図法制定の促進などをアピール、当時の背景が思い浮ぶ。▽全日図は、のち大阪・京都で全国大会が開かれたが、自治労、日教組と組織上の問題が溢路となり僅か3年で自然的解消。いわば戦後の徒花、槿花一朝の夢ともいうべきか。(もり)

私 立 短 期 大 学 図 書 館 協 会  
 昭 和 5 4 年 度 決 算                      昭 和 5 5 年 度 予 算

## 収入の部

勘定科目	予算額	決算額
前期繰越金	253,951	253,951
会費	900,000	885,000
広告収入	730,000	650,000
寄付金	0	30,000
雑収入	3000	14,216
借入金	0	214,308
計	1,886,951	2,047,475

## ○収入の部

勘定科目	金額
会費	1,150,000
事業収入	260,000
広告収入	346,000
助成金	30,000
雑収入	4,000
計	1,790,000

## 支出の部

勘定科目	予算額	決算額
事務費		
消耗品費	10,000	2,100
通信費	35,000	35,700
会報郵送費	30,000	26,180
紀要 "	35,000	0
役員会交通費	55,000	55,000
会議費		
全国理事会	24,000	9,945
在京役員会	22,000	24,200
交付金	360,000	374,600
負担金	10,000	10,000
事業費		
総大会開催費	100,000	87,300
会報刊行費	80,000	79,600
紀要 "	180,000	437,900
研究活動費	90,000	63,050
総覧特会繰入	800,000	833,400
予備費	50,000	0
雑費	5,951	8,500
計	1,886,951	2,047,475

## ○支出の部

勘定科目	金額
事務費	
消耗品費	5,000
通信費	45,000
会報郵送費	32,000
紀要 "	8,000
役員交通費	55,000
会議費	
全国理事会	24,000
在京役員会	22,000
交付金	475,000
全図連加盟負担金	10,000
事業費	
総会開催費	50,000
会報刊行費	95,000
紀要 "	340,000
総覧分析刊行費	360,000
予備費	50,000
雑費	4,692
借入金返済	214,308
計	1,790,000

## 「私立短期大学図書館総覧」特別会計

(昭和55年 3月31日現在)

## 支出の部

勘定科目	金額
調査表印刷費	23,800
調査表配布・回収関係費	65,500
総覧印刷刊行費	1,021,000
PR関係費	146,000
発送費	109,200
計	1,365,500

## 収入の部

勘定科目	金額
昭和53年度繰入金	65,000
昭和54年度繰入金	183,400
同上 広告収入	650,000
同 入 金	405,720
借 入 金	60,880
計	1,365,500

## ＜ 会 員 校 の 声 ＞ 第 5 回

図書館がやっと建つことになりました。ここは仮住まいだから、といわれて勤め始めたのが12年前、司書の資格をとったのが10年前。それから同僚と2人で、ああでもない、こうでもないと試行錯誤のくり返し、ようやく方向を見定めてスタートをきったのが8年前。自費で有給休暇をとってのセミナー、研修会への参加、予算を組んで本部への請求と折衝、情報をあさり、書評を読んだの選者等々、その間司書も5人になり、目録カードが1枚もなく、分類もめっちゃめっちゃで蔵書も少なかった昔がうそのようになりました。公共図書館ではないけれど、貸出を増やそうをスローガンに、貸出冊数の制限を除き、予約制度を始めて、忙しいお昼休みはカウンターに3人位立たなくてはいけないようになりました。

レファレンスのカウンターにも学生が集まり、どこもお定まりの人手不足を嘆いております。あれもこれもと欲張りながら、できることは限られており、机に積まれていく新刊と格闘して毎日を送るのが精一杯です。しかし、そんな毎日の中で新図書館の建築というニュースは、やはりうれしく、これまでの月日がむだではなかった、書庫から、閲覧室から図書があふれ、利用者があふれる状態にまでしてきた努力がやっとむくわれるようになったと思うと感慨深いものがあります。

一体図書館は何をしているのか、何がそんなに忙しいのかという声を聞くたびにがっかりするのですが、そういう声が聞かれるうちは、私達の努力が足りないのだと痛切に感じざるを得ません。大げさに言えば、公共図書館活動が活発な一部地域を除いて、日本全体の図書館に対する態度がこのようなものである以上、私達は「これだけのサービスをしています」と口でいうよりも、態度で、サービスの実践で、利用者に図書館というものを知らせていかなければいけないと思います。図書館が短期大学の中でどのような位置にあるべきなのか、圖書の貸出の他に、レファレンス・サービス、コンテンツ・サービス、新着図書案内等により、利用者に対してより専門的な知識を提供し、学習・研究の両方の場に不可欠な存

在となること、カリキュラムと密接な関わり合いを持つこと、と目標をはっきり定まっているのだから、ひたすら目標に向かえばいいのですが、ひたすらすぎると図書館の独走ということになってしまいます。ここでまた、図書館に対しての無理解という壁にぶつからざるを得ません。図書館を理解してもらいたいと願って、一生懸命している努力が再び図書館の無理解という壁にぶつかって宙にうく時、ではどうしたらいいのか途方にくれるのですが、私達にできることはただ努力するしかないと思って挫折しそうになる心を励ましながら、何とかたっているのです。

新しい図書館は、従って、私達の努力の結果というよりも、単なる学内の方針なのかも知れないのですが、しかし、それでも私達の努力がなければやはり必要とはならなかったらうと思います。あれこれ考え、迷い、悩み、恨むこともあり、怒りながら、それでもこの道しかないと思って、今日まで努力してきました。いろいろな研修会やセミナーに出席するたびに、私達の考えはまちがっていなかった、これで正しいんだと励まされながらきたのですが、何といても自画自讃に終わってしまっは意味がありません。何とか厚い壁の向うに出て、自由に呼吸してみたいと願っています。図書館は蔵書内容と司書の姿勢でその価値が決まると思います。蔵書内容を良くするには、図書予算を豊富にし、司書の選書のセンスをみがけばよいと思いますし、司書の姿勢をよくするには、司書自身が勉強するしかありません。10年単位で図書館をとらえ、自己をとらえ、librarianという呼称に一步でも近づけるように努力するしかありません。

新しい図書館が、資格をとって丸10年目に建つのも何らかの意味があるのかも知れません。これからの10年間、20年間を考え、あせらずに、(30才の大体にのってからは気が短くなりましたが)少々の無理をしながら、夢ばかりは大きく、やっというと思います。

高島 涼子(北陸学院短大図書館)

### ～ 原 稿 を お 寄 せ く だ さ い ～

会報創刊以来連載として「短大図書館めぐり」「会員校の声」を毎号起載しておりますが、その他新館紹介、随筆、自由投稿の声の欄や資料重複交換コーナーなど、また資料紹介、小さなニュースどんなことでも結構です。会報は原則として年2回、7月と12月刊行ですので、〆切は別に定めませんので、思いつくまま、随時送付し

ていただければありがたいと存じます。会報は会員校の情報誌として有効に利用されますよう、御協力、御支援をお願いします。

原 稿 〒142 東京都品川区旗の台3-2-17  
送 付 先 文教大学女子短期大学図書館内

私立短図協会報編集担当係

## 《総覧の分析編 9月刊行》

「私立短期大学図書館総覧」1978年調査(集計・分析)一版称一が9月に刊行することになりました。

1.「総覧」の概要、2.実態集計表、3.集計結果の概要、4.分析、の構成でなっています。「総覧」参加334校337館をA.短大プロパー館、B.大学と共用館、C.中高その他との共用館の3つのグループにわけ、グループごとに活動実態をまとめ集計表を作成しました。集計表は、総覧の165の設問を、1.施設・設備、2.組織・運営、3.資料、4.利用について、5.業務一般の5部門に整理したもので、集計結果に対して概要を付してあります。したがって各々のグループの実態の概要を把握し、各自の図書館の実状を全体の傾向の中で位置づけてみられるものです。

参加館のうち65%をしめる短大プロパーの221館について分析を試みました。分析は多角的に拡大していくと限りないものとなるため、昭和49年に出された私立短期大学図書館改善要項に示された規模別に準じ、分析の

基本の軸を専任職員数に定めて、奉仕対象学生数、年間資料費、蔵書冊数、相互協力、奉仕活動等々、図書館活動の全般を関連づけながら分析を試みてみました。改善要項の条件をみたしているか否か判断することも出来ます。

短大が設置されて30年の歴史を重ね、発展、成長、充実を目ざしながらも低迷の域から脱しえない今日の短大図書館の実態を認識し、前進への努力をしなければなりません。「成長する有機体」である図書館が、最低限の必要業務、特に利用者に対する基本的なサービスをするために必要とする職員と施設、設備の一つの目安が判読されまたそこに潜在する問題が引き出され、原因の一端をみつけ得るならば、分析の意図するところとなります。

「総覧」が刊行されてから1年4ヶ月たちました。集計・分析の刊行が大変おそくなりましたことを深くおわび申し上げます。(杉山)

## 『関東甲信越地区私立短期大学雑誌総合目録』

### 編集経過報告

「雑誌の所在・所蔵目録をつくりませんか。相互協力のツールとして使えたらと思います」と呼びかけてから1年になろうとしています。集まったカードの整理はマイコンでという最初の目論みが、結局手作業になってしまい手間をくっています。なんとか夏休みまでには形にしたいと考えながら、最終作業を進めています。

アンケートの依頼をしたのが147校、回答を寄せていただいたのが42校44機関でした。気儘に気軽にやっ払いという雰囲気もお伝えしたつもりでしたが、結果的にはこのような数字で終わってしまいました。

『学術雑誌総合目録』と比較したのが下図です。

	機関数	雑誌数	カード総数
学術雑誌総合目録 (人文科学和文編1973年版)	294	24,000	30万
関東・甲信越地区私立 短大雑誌総合目録	44	4,000 <small>洋雑誌を除く</small>	12,600 <small>洋雑誌を除く</small>

いかに規模が小さいかがおわかりいただけるかと思えます。しかし、一館一館の力は大きいたくなくとも、集まれば十分な力になり得ることを再認識した次第です。

夏休みに入る前までには冊子として皆様の御手許へお届けできるかと思えます。(国学院大学栃木学園図書館)

### <私立短期大学図書館協議会役員>

5.5.6.4 現在

会 長 もり・きよし(青葉学園短大)  
 常任理事(事務総括、会計、渉外担当)  
 安部 豊巳(別府大学短大部)  
 理 事(連絡、広報、記録担当)  
 網本 正巳(調布学園女子短大)  
 理 事(研究活動担当)  
 芝原 翠(東洋英和女学院短大)  
 理 事(会報編集担当)  
 菅原 春雄(文教大学女子短大部)

### 地方理事

北海道地区一坂本 龍三(北海道武蔵女子短大)  
 東北地区一 中村 泰正(山形女子短大)  
 関東地区一 片山喜八郎(国学院大学栃木短大)  
 甲信越地区一 伊藤 久祐(愛知淑徳短大)  
 東海地区一 瀬古 輝子(帝塚山学院短大)  
 北陸地区一 瀬古 輝子(帝塚山学院短大)  
 近畿地区一 瀬古 輝子(帝塚山学院短大)  
 中・四国地区一 竹田 俊一(四国女子短大)  
 九州地区一 村上 博子(西南女学院短大)  
 監 査 一 宮島 敬久(共立女子大学短大)  
 幹 事 一 渡辺 敏一(東京女子大学短大部)事務局  
 一 青木 忠洋(文教大学女子短大部)会報校  
 一 杉山 敏子(フェリス女学院短大)研究校

## ＜地区協議会活動報告＞

### ＜北海道地区＞

昭和54年4月27日、私立短図協の北海道地区協の設立総会を北海道武蔵女子短大において開催して1年が経過した。

地区協発足と同時に、北海道図書館連絡会議への加盟を決定し、短大図書館として地域図書館網の組織づくりに積極的に参加した。

同年9月21日(北海道会館)に開催された第1回研修会の「NDC 新訂8版」セミナーは、講師が原編者のもり・きよし先生であったことと、前記の北海道図書館連絡会議加盟の各館の協力と相俟って盛況裡に終わったことは、この種の会合の計画と実施にふなれであった主催者側としては大きなよこびと収穫であった。

また地区加盟館に対する連絡等のため、小冊子である「北海道地区協議会通信」(第1-4号)を発行している。

今年度にはさる4月25日総会を開き事業計画・予算案も決定している。研修会については「短大図書館におけるレファレンス・ワーク(仮題)」について北嶋武彦先生の講演を予定している。

私立短図協としても、また各地区協としても頭痛のタネは一樣に財源の捻出であろう。しかしこれは、私立短図協に対しては、各地区協が、また各地区協については各地区加盟館の理解と協力がなければ解決されそうにもない。(S記)

### ＜東北地区＞

昭和54年度、東北地区私短図協研修会を1月26日に開催した。理事校の山形女子短大が新図書館を建設中であったため、竣工後、図書館見学を兼ねて研修会開催ということで、雪の多い東北地区では異例の1月の研修会ということになった。

当日は大寒に入って6日目であったが、山形市は積雪10センチ、白皚の各峰蔵王連山を一望に見渡す新図書館会議室を会場として開会した。会長の歓迎のあいさつに続いて、直ちに研修に入った。研修テーマは「NCR改訂に伴う目録の扱い方について」。たまたま公共図書館という立場において、山形県立図書館が新版目録規則に切り替え中だったので、同館の森資料課長、鈴木目録係長さんに助言者としてご参加いただいた。

はじめに各館より切り替え状況の説明から進められたが、参加館中、2館を除いて切り替えに着手していることがわかった。各館もそれぞれの問題点をかかえていたが、助言者の方からは昨年7月に開館した山形市立図書

館の目録作成を指導した際の事例が語られ、具体的な事例についての説明が行われたので大変参考になった。

なお、理論面については目録問題に造詣の深い宮城清先生(仙台白百合短大教授・図書館長)より問題点の解明について、適切な御発表をいただいた。宮城先生の御発表については今回創刊された「短期大学図書館研究」第1号に「NCR新版に切り替えて一考え方と方法一」というテーマのもとに6ページにわたって詳説されているので念のため付記して謝意を表します。

また、県図の鈴木目録係長さんからは「印刷カード」の問題についても触れられたので、今後、「図書館界」30巻1号、「現代の図書館」15巻4号、その他の発表記事について比較検討を行うことになった。

研修会終了後、総会を開催、「東北地区協議会」の結成について協議、全員の賛成のもと、昭和55年1月26日をもって「私立短期大学図書館協議会東北地区協議会」が発足することになった。「規約案」「予算・事業案」を審議し、今後の会の健全な発展を企図することになった。

役員館としては「幹事館」に白百合短大図書館「監査館」として聖和短大図書館(ともに宮城県)が選出された。

### ＜東海・北陸地区＞

#### ○昭和54年度第1回研修会

日時：12月13日(木) 午後13:00-4:00

場所：愛知淑徳短期大学

参加校：13校(うち会員校11校)17名

研修テーマ

1. 図書の管理における長期不明図書について他短大では、どのような除籍基準を持っているか。
2. 目録について
  - (1) 「日本目録規則」をどのように利用しているか。
  - (2) 標目(著者・訳者・内容細目の書名等)をどこまでだしているか。
3. 分類について
  - (1) 助記表をどの程度まで利用しているか。
  - (2) 分類簿の使用について。
4. その他
  - (1) 整理業務、その他のマニュアル的なものを持っている館があるか。
  - (2) 図書の督促をどのようにおこなっているか。
  - (3) 禁貸出図書の基準(貴重本の取り扱い)について
  - (4) 学生の図書委員の有無とその活動状況について

(5) 図書費の予算分配および図書選定について

(6) 図書委員(教員)の活動について

について事前アンケート調査や参加校の意見によりいろいろな角度から研修ができた。また当日の指導助言として愛知淑徳短大図書館事務長林勇一氏が解説した。

#### ○昭和55年度第1回幹事会

日時：5月13日(火)午前11.00～11.50

場所：愛知淑徳短期大学

出席：4校 欠2校

#### 議事

1. 昭和54年度事業報告及び決算報告
2. 昭和55年度事業計画及び予算案
3. その他

1、2については原案どおり承認、その他として①総会の持ち方、②委員会の発足については幹事会とは別に委員会として、企画委員会と会報編集委員会を設けて、会を発展させるため活発に活動していきたい。

③役員の変更について会長校、地区幹事校は近々に改選される。

#### ○昭和55年度第1回研修会

日時：5月13日(火)午後1.00～4.00

場所：愛知淑徳短期大学

参加者：14校(うち会員校13)20名

研修会に提出されたテーマ・問題点

1. 図書館予算の使用法と収支計画について
2. 図書の選書方法について
3. NDC新訂8版への切り換えにおける問題点等について
4. 分類の精粗、図書記号、和洋混配について
5. 図書の返却方法について
6. コピーサービスについて
7. 雑誌の処理について
8. 未整理資料の処理の仕方について

以上について実情及び意見交換が行われた。

#### ○図書館実態調査について

今年度の研修テーマ(図書館相互協力)の資料として、地区内の私立短大へアンケート調査(相互利用及び図書館業務に関するアンケート調査)(7月10日までに回答)を5月26日付で依頼した。また今年度JLAの「日本の図書館」に記載する図書館調査票の写しの送付依頼もだした。

#### 会報3号 5.5.5刊

内容：巻頭言(大垣女子短大・天野信定)、昭和55年度第1回幹事会記事、昭和54年度事業報告、決算、昭和55年度予算案、昭和54年度第1回研修会記事、

聖徳学園女子短大図書館、北陸学院短大図書館、金城短大図書館の近況について、昭和55年度第1回研修会報告、事務局報告、地区協議会会則、地区加盟館名簿(職員名簿も含)。

○地区協議会加盟館 昭和55年6月4日現在 20館

#### ○昭和55年度総大会

日時：

日時：昭和55年1-0月上旬(予定)

場所：愛知淑徳短期大学

対象：地区内私立短大図書館及隣接短大

参加費：1人1,000円 資料代(昼食を含む)

総会(地区ブロック別の話し合い、全体会議)

研究会1. 「図書館相互協力について」(仮称)講演

- 2.1) 「図書館相互利用」の実情報告
- 2) 相互協力を進めるには

#### <近畿地区>

#### <第7回研修懇談会>

日時：昭和55年4月2日(水)13.00～16.30

会場：帝塚山学院短期大学

参加館：21館(33名)

①総会 1) 会勢と活動報告

2) 会計報告

3) 昭和55年度活動計画：相互協力体制をかためてゆくことを基本方針とする。

②阪神地区大学図書館相互利用体制についての実態報告  
報告者：中野光世氏(相愛学園図書館司書)

私立大学図書館協会西地区部会で行われている阪神地区大学図書館相互利用について、相愛学園図書館(大学・短大共用)の窓口を担当しておられる中野光世氏に、その実態についてお話しいただき、近畿地区短大間の協力体制の方向を探った。

主な内容：1. 閲覧・貸出・複写等、利用面での実態と問題点を中心に、共同選択、共同購入、分担保存、レファレンス面での協力等の実態。

2. 相互協力をとりまく状況。

3. 国公私立大学図書館協力委員会について。

③近畿地区短大間の相互利用についての協議会

相互利用を制度的なものにすることを目標として、本協議会での基本的な姿勢について話し合う。相互利用については、大学の本質的な問題もあり、学校側の理解を求めするためには、短図協として、私立短大協会の学長会あたりに働きかけることも、手続きとして必要なのではないか、という意見が出て、この件については全国理事会に持ち込むことにする。

ハンドブック、規約類の作成に関しては、たくさんの館が参加できるかたちしておくためにも、また形式に束縛されずに実質をかためてゆくためにも、規約類は現段階では考えず、さしあたって、近畿地区の雑誌目録を活用するための最低限の情報から手がけてゆくということに落ち着いた。

近畿地区の今後の体制づくりへの参考資料として、相互協力の実績のある他の7団体のハンドブックの要点や規約、協定書の類を配布した。

#### <雑誌目録編集委員会>

第3回：昭和55年3月10日 10名出席

各館から送られてきた所蔵雑誌のカード約1万3千枚を、ABC順配列し、問題点を検討。カード内容の不明確なものについて点検するため、分担して持ち帰る。

第4回：昭和55年4月2日 10名出席

編集上の打ち合わせ、及び、疑問点についての検討と各館への問い合わせの準備。

第5回：昭和55年5月1日 14名出席

編集上の打ち合わせ完了、各自分担して持ち帰り、原稿作成作業開始。

6月6日を原稿の提出期限とし、疑問のあるカードについては、再度各館に照合する。

6月下旬印刷所に発注、7月中には刊行にこぎつけたかと思っている。

#### <中国・四国地区>

①昭和54年11月14日を以て、前会長鈴木短期大学図書館から、四国女子大学短期大学部図書館に地区協議会長が引き継がれた。中国・四国地区図書館協議会規程案をつくり、昭和55年5月、各図書館に送付し、その意見を求めた所、意見は別になく規程が成立した。

②会報第5号、及び、短期大学図書館研究第1号を加盟図書館に配付した。

③6月3日、4日に開かれた私立短期大学図書館協議会理事会、総会に四国女子大学短期大学部図書館長竹田俊一が出席した。

#### <九州地区>

##### <九州地区協議会設立>

地区協議会設立については、昭和53年12月に開かれた九州地区私立短大図書館第2回研修会で決議されていた。その後準備をすすめていたが去る5月7日に設立総会を下記の通り開催した。

日 時 55年5月7日 午後12.30-16.30

場 所 西南女学院短期大学

出席校 14校 20名

協議事項

九州地区図書館協議会設立について

(1)趣旨および経過説明

(2)九州地区図書館協議会会則案検討

(3)会長および幹事選出

会長校：西南女学院短大、幹事校：福岡女学院短大（福岡県）、扇城学園中津女子短大（大分県）、佐賀龍谷短大（佐賀県）、鎮西学院短大（長崎県）、中九州短大（熊本県）、緑ヶ丘学園延岡短大（宮崎県）、鹿児島短大（鹿児島県）、沖縄キリスト教短大（沖縄）

報告事項

昭和55年度第1回（4月）、第2回（5月）在京役員会報告

その他提案および承合事項

(1)予算申請の關係上、次年度計画を早目に出してほしい。

(2)総会や研修会の折には、地区内の各館が自館の刊行物を持ち寄ってほしい。

(3)教職員の図書貸出し規程を参考に、各館よりもらいたい。

(4)開館時間の延長について。 以上

今秋、鹿児島市で開催予定の全国図書館大会・短大分科会において、九州地区私立短大図書館協議会より、鹿児島短大、佐賀龍谷短大、福岡女子短大が発表を行なう予定である。

#### <会費納入のお願い>

私立短大協加盟館各位におかれましては、昭和55年度会費を下記の要領で御納め下さるようお願いいたします。尚、払込みは直接事務局宛に現金書留又は銀行口座振込でお願いいたします。

払込先：〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短期大学図書館内  
私立短期大学図書館協議会事務局

払込口座：富士銀行吉祥寺支店  
普通預金口座246-889887  
私立短期大学図書館協議会

払込期限：9月末日 55年度会費：5,000円

\*特にお申し出のない場合は、経費節減のため、領収証の発行をお許し願います。



## 「短期大学図書館研究の案内」

本協議会の研究紀要「短期大学図書館研究」創刊号は、発行が予定より若干遅れましたが、既に地区理事校を経て、加盟校の各館に届いたことと思います。刊行に際しては、会員加盟館のご理解は申すまでもなく、投稿者各位から、日頃の研さん、研究成果の一端について、積極的に投稿、披露をいただき、また、地区理事並びに編集関係者の熱意と協力によりまして、発行の運びとなりました。掲載の論題等は下記「目次一覧」に示しましたが、内容を見ますと、短大図書館ならではのものを含み、その範囲も多方面に及んで、当機関誌としての特長が現われているものと思います。今後継続していく上での、意見、感想をお寄せください。なお第2号の原稿を随時受付ていますので、関係者各位の投稿と、各種の情報提供をお待ちしています。当誌が機関誌としての足場を固める上にも、一層のご協力をお願いします。「原稿募集要項」等は、第1号の90頁に掲載してありますので、ご参照ください。 (編集担当校)

### 短期大学図書館研究 創刊号目次一覧

機関誌の創刊にあたって 会長 もり・きよし  
祝 辞 公短協会会長 加藤 直  
私立短期大学図書館協議会—その成立と展開の論理—  
安部 壘巳  
短大図書館における今後の課題—相互協力の推進—  
菅原 春雄  
小規模大学図書館の運営と機械化 渡辺 敏一  
書かずに済ませる方法—発注・受入・目録作業での試み—  
網本 正巳

NCR新版に切り換えて—考え方と方法 宮城 清  
保育科関係図書のカテゴリの展開について 山本 芳江  
戦争体験記録類出版の推移と特質 醍醐 光子  
マイクロ・コンピューターによる貸出制御とそのプログラム〔第1稿〕 片山喜八郎  
菊地 俊一  
図書館利用教育をしてみると 丸本 郁子  
短大生と短大図書館—神戸山手女子短大図書館実態調査報告— 永田恒三郎  
図書館建築における認識と実践—東京女子短期大学部における図書館建築の理念と実践の記録—  
安部 壘巳  
短期大学図書館に関する文献目録 — 菅原 春雄

#### 一 報 告 一

大学図書館職員講習会(東京)に参加して 馬場 和子  
大学図書館職員講習会(大阪)受講報告 橋本 澄江  
総覧の集計分析について 芝原 翠  
近畿地区協議会、雑誌総合目録に着手 瀬古 輝子  
私立短期大学図書館界の動き—昭和54年度  
芝原 翠

#### 一 紹 介 一

奈良文化女子短期大学付属図書館  
原稿募集 (付)原稿執筆要項  
○頒布:創刊号1部1,500円(送料別2,000円)  
申込先:〒105  
東京都港区虎ノ門1-25-12  
新日本印刷 電話(03)503-0428  
\*希望の方は個人・団体とわず上記へ申し込んでください。

## 事 務 局 報 告

### 昭和55年度第1回全国理事会

日時:6月3日 午後1.00—3.00

場所:日本図書館協会

出席:会長、各理事、地方理事、幹事 15名

議事:もり会長のあいさつのあと、昭和55年度総会に  
かける議題について審議

内容:①会勢、事業報告、②地区活動報告、③決算及び  
監査報告、総覧特別会計報告、④昭和55年度事業計  
画・予算案について報告、質疑の後、いずれも承認。

### 昭和54年度第6回在京役員会記録

昭和54年12月22日 於 日光鬼怒川

#### I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 「総覧」の販売状況
- 3) 会報No.5の刊行
- 4) その他

#### II 協議事項

- (1) 関東地区協議会の運営について(継続)

- 2) 「短大図書館研究」の編集、刊行、頒布等について
- 3) 「総覧」の集計分析書の作成、刊行、頒布方法等について
- 4) その他

#### 第7回在京役員会記録

昭和55年1月30日 於 共立女子短大

##### I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 地区協議会の活動
- 3) その他

##### II 協議事項

- 1) 「短大図書館研究」の編集について
- 2) 「総覧」の集計分析書について
- 3) その他

#### 第8回在京役員会記録

昭和55年2月28日 於 共立女子短大

##### I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) その他

##### II 協議事項

- 1) 「短大図書館研究」の編集、刊行について
- 2) 人事（関東地区理事）について
- 3) 「総覧」の集計分析書作成について

- 4) 昭和55年度総会開催について
- 5) その他

#### 昭和55年度第1回在京役員会記録

昭和55年4月2日 於 日本図書館協会

##### I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 「短大図書館研究」の刊行
- 3) その他

##### II 協議事項

- 1) 昭和55年度総会の運営について
- 2) 昭和55年度事業計画及び予算案について
- 3) 「短大図書館研究」の配布及び販売方法について

#### 第2回在京役員会記録

昭和55年5月1日 於 日本図書館協会

##### I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 関東地区協議会雑誌総合目録について
- 3) 全図連の最近の動向について

##### II 協議事項

- 1) 「短大図書館研究」の投稿者への薄謝について
- 2) 昭和55年度総会の運営について
- 3) 昭和55年度事業計画及び予算について
- 4) 在京役員会及び関東地区協議会の人事について

## ＝ 事務局通信 ＝

#### 新規加盟館名簿（会報5号以降）

近畿地区

○四天王寺女子短大

〒583 大阪府羽曳野市植生野1308

連絡責任者：図書館課長 片山 利一

○PL学園女子短大

〒584 大阪府富田林市大字喜志2680

連絡責任者：司 書 仁平 征次

訂正）堺女子短大 → 旧称：愛泉女子短大

**編集後記：**会報第6号をお届けいたします。この5月短大創立30周年記念式典が盛大に東京で行われました。短大における制度化の定着と重要度が、ますます高まり、そこで教育内容、質の問題が問われてきます。図書館においてもその役割は大きいと思います。「80年代における短大図書館はいかにあるべきか」というテーマで今年の全国図書館大会が鹿児島で開かれます。今後図書館界はキカイ化と相互協力のもとで発展し、全国ネットワークにつながると思います。まずは自館からその整備と対処に向っていかねばなりません。

6月に総会が開かれ、今後の私立短図協の活動に大いなる期待が寄せられ、我々役員も力一ぱい頑張りたいと思っております。地区活動の拡充と発展が、本協議会の使命でもあり、会員校の一層の発展と協力をお願いいたします。(S)

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145